

令和3年度天皇杯受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

「棚田」も「心」も潤して ～167年守り続けた通潤魂、未来へ～

○集団等の名称 白糸第一自治振興会（代表 山村 伸吾）

○所在地 熊本県上益城郡山都町

○受賞理由

・地域の沿革と概要

山都町は、九州のほぼ中央に位置し、九州のへその町として知られている。白糸台地は、水利の便が悪く、農業生産性の低い土地だったため、江戸時代まで大変苦しい暮らしを強いられていたが、矢部の惣庄屋（現在でいう市町村長）である布田保之助氏が通潤橋・通潤用水の建設に取り組み1854年に完成。現在も約118haの棚田に水が供給されている。これらの施設の維持管理は完成から167年経つ今日まで住民の手で行われている。

・むらづくり組織の概要

平成18年に関係9集落からなる「白糸第一自治振興会」を設立し、米出荷協議会の「通潤橋水ものがたりの会」と一体となって活動を行っている。

・むらづくりの取組概要

（1）農業生産面

- ① 棚田管理と収益向上を目的とした米の高付加価値化（特別栽培米）に平成25年度から取り組み、厳格な統一出荷基準を設け、講習会による栽培技術の向上と品質の均一化を図っている。
- ② 「通潤橋水ものがたりの会」を設立してブランディングを進め、厳しい栽培基準を設けているが、特別米を扱う関西の卸販売業者や百貨店での評価を得るまでに至っている。また、ふるさと納税の返礼品としても取り扱われるなど棚田米のブランド化と販路開拓の取組は地域生産者の収益増加につながり、地域農業の振興に著しく寄与している。

（2）生活・環境整備面

- ① 文化庁の重要文化的景観に選定された後は、地域住民間の意識の共有化が更に強固となっている。食や地域づくりに関する知見向上のための勉強会や地域ビジョン作成のワークショップを重ね、通潤用水に感謝し美しい白糸台地の景観を守りたいという共通認識が住民の意識と地域力を高めている。特に女性部は講演会や議会傍聴等により勉強を重ねており、環境配慮の取組として廃油を使った石鹸作りが女性部ならではの恒例活動となっている。
- ② 全国棚田サミットを地元開催し、地域住民がパネリストとして参加。現地視察も受け入れ、棚田や用水路の案内、田舎料理や弁当のもてなしなどにより棚田サミット開催を成功に導いた。これを機に都市と農村の交流活動も加速して、毎年地域内外から100名以上が参加する「棚田ウォーキングと収穫感謝祭」を企画運営し、青年部がガイド役となり通潤用水の成り立ちと構造、鳥獣被害と電気柵などの対策などについて説明を行っている。
- ③ 熊本地震と豪雨災害で大きな挫折感を味わうも、CSR（企業の社会的責任）活動との連携にいち早く取り組み、多くの都市住民とボランティア活動を通して交流活動を継続している。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、通潤用水と棚田を核としたむらづくりに成功している事例であり、今後の取組の発展が期待できる。

かんがい施設を通して水と環境に配慮した本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。